

森林と国有林に関する

アンケート調査（その2）

岩村田・小 諸担当区事務所○池戸 健志
経営課 収 穫 係 寺澤 進
御代田担当区事務所 村山 博

はじめに

平成2年度に当署で実施した「森林と国有林に関するアンケート調査」では、一般の方々は営林署を約半数の人が知らない。特に一般の観光客については知られていないことが浮き彫りにされた。更に、若い人の森林・林業離れが顕著にみられた。

このことから、今年度はこれらの問題点を踏まえて営林署（国有林）、森林・林業について詳細に一般の方々のニーズを探るため再度アンケート調査を行った。

1. 調査の時期

平成3年9月から12月までの4か月間。アンケート総数260人

2. 調査の対象者

日頃森林とのかかわりの少ない一般観光客。具体的には、湯の丸高峰自然休養林内にある高峰温泉を訪れた観光客を対象に調査を行った。

3. アンケート調査の項目

- (1) 森林・林業についてどの程度理解されているか。
- (2) 営林署・国有林への関心。
- (3) 国有林の今後の取扱い方。

この結果多くのことがわかったが主なものについて紹介する。

結 果

(1) 森林・林業についてどの程度理解されているか

ア. 「森林に水を蓄える働きがあることを知っているか」聞いたところ、

「知っている」と答えた人は96%いた。また、「森林が再生産可能な資源であることを知っているか」聞いたところ、「知っている」と答えた人は92%いた。(表-1)

木材の輸入量についても、輸入していることを「知っている」人が74%いた。

これらについては、森林・林業離れがすすんでいるなかで、私たちが予想したよりも多くの人を知っており以外であった。

イ. 「森林の伐採についてどう思うか」聞いたところ、「伐採に反対」が3%、ブナやミズナラなどの天然林の伐採は極力避け人工林の伐採を行なう「人工林の有効な利用を図る」が68%、「天然林・人工林の有効な利用を図る」が23%でした。

「天然林・人工林の有効な利用を図る」が「伐採に反対」よりも20ポイント高くなっている。

ウ. 「森林が再生産可能な資源である」ことを「知っているか」「知らないか」によって差があるのではないかと考え、「再生産可能な知識」と「森林の伐採」とをクロスさせてみた。(表-2)

森林が再生産可能な資源であることを「知っている」人では、「伐採に反対」という人は1%なのに対し、「知らない」という人は27%と高く際立っている。

「天然林・人工林の有効な利用を図る」という人が「知らない」人の5%に対し、「知っている」人が25%と20ポイントも高くなっている。

このことから、「森林が再生産可能な資源」であることを「知っている」人は森林の伐採に理解があると言える。

(2) 営林署・国有林への関心

ア. 「営林署を知っているか」聞いたところ、「全く知らない」が23%、

「少し知っている」が71%、「かなり知っている」が6%であった。

これを平成2年度の調査と比較すると、「全く知らない」という人が前回の調査では14%であったのに対し、今回の調査では23%と9ポイント高くなっている。(表-3)

ウ. 年代により「知っているか」「知らないか」差があるのではないかと考え「年代別」に「知名度」をクロスさせてみた。(表-4)

年代別にみると、「全く知らない」と答えた人は20代では41%、30代では31%、40代では10%、50代では8%、60代では10%となっており「全く知らない」と答えた人のうち72%が40才未満の若い世代の人であった。このことから若い世代ほど営林署を「知らない」と言える。

エ. 「営林署の仕事を知っているか」聞いたところ、「林野などの財産管理」や「植付や下刈りなどの森林を造ること」ではそれぞれ62%、「林野のパトロールなどの林野の管理」では61%、「治山」では45%、「林道を造ること」では32%、「木材の生産や販売」では29%となっている。営林署の仕事では、「木材の生産・販売」が大きなウエイトを占めているが、ほかの仕事に比べると「知っている」割合が29%と低い結果となっている。この原因としては、一般の方々は営林署は伐採や森林の開発に抑止をかける官庁だというイメージがあり、我々の認識との間に大きな隔たりが生じているのではないかと考えられる。(表-5)

また、40才を境に大きな隔たりが見られる。「年代別」に「仕事」をクロスさせた。(表-6)

いずれの仕事についても、40才以上の平均では74%が知っているのに対して39才以下の人では23%となっており、若年齢層の人達に知られていないことがわかる。

オ. 「国有林が特別会計制度で運営されていること」を知っているか聞いたところ、「知っている」と答えた人が29%、「知らない」と答えた人が71%いた。(図-4)

年代により差があるのではないかと考え「年代別」に「特別会計制度」をクロスさせてみた。(表-7)

「知っている」と答えた人は、20代では3%、30代では6%、40代では21%、50代では33%、60代では37%となっている。

このことから年代が高いほど、国有林が特別会計制度で運営されていることを知っていると言える。

(3) 今後の国有林の取扱い

ア. 「国有林を今後どのように取り扱ったらよいか」聞いたところ「森林として維持する」が39%、条件付きで別荘などの施設を点在させるという「小規模な利用」が34%、スキーゴルフなども楽しめるように自然環境に影響を及ぼさない範囲で「大規模な利用」が10%となっている。

「小規模な利用」と「大規模な利用」の両者を合わせると44%が「森林の積極的利用を図る」を選択しており、「森林として維持する」の39%を5ポイント上回っている。(図-5)

これを2年度調査と比較してみた。前回調査では「森林として維持する」が56%であるのに対し、今回の調査では39%と17ポイントも低くなっている。

また、前回の調査では「小規模な利用」が25%であったのに対し、今回の調査では34%と9ポイント高くなっている。(表-8)

イ. 年代により国有林の取扱いに差が見られるのではないかと考え「年代別」に「国有林の取扱い」をクロスさせてみた。(表-9)

年代別に見ると、「森林として維持する」が20代では8%、30代では18%、40代では48%、50代では44%、60代では68%となっており年代が高くなるにつれて開発に慎重だといえる。

また「大規模な利用」についてみると20代では33%と高く、60代では2%となっており若い世代ほど国有林の開発に積極的であると言える。

まとめ

これらのことをまとめてみると、第1点は、一般の方々の、森林・林業離れが叫ばれている中、「水源かん養機能」や「森林が再生産可能な資源であること」などの個々の問題については理解されていることが伺われた。

第2点目は、「営林署の知名度」や「営林署の仕事」「特別会計制度」などの国有林・営林署に関することについては39才以下の若年齢層の人達に「知られていない」と言える。

第3点目は、国有林の今後の取扱いについては、平成2年度の調査に比べると「森林として維持する」という人が少なく、条件付きで別荘などの施設を点在させる

という「小規模な利用」を好ましいという人が増えた。中でも若い世代ほど国有林の開発に積極的であると言える。

以上のことから、森林・特に営林署・国有林に対する理解を深めてもらうためには、より一層のPRが必要でありこの手段としては、都会の人、特に若い世代を対象とした植樹祭や体験林業の実施や、国有林を活用した営林署主導型の各種イベントへの参加の要請、人の目を引く看板類の設置などが効果的と思われる。

これらに加えて、民間活力導入した森林空間利用、一般にも広く開放された林間学校施設の導入によって、一般の方々、特に若い世代と国有林とのふれあいの場を増大させることが国有林・営林署のPRになると共に、貸付収入による収入の確保につながり効果的と思われる。

今回の調査のなかで、国有林・営林署に対する意見・要望を書いて頂いた。そのなかで、約10人の方から、各種のメディアを利用して「営林署」や「営林署の仕事」をもっとPRしてほしい、営林署の看板類をよくみかけるが古くなって見づらいので建て直してほしいとの要望があった。

おわりに

今後も、今回のアンケート調査の結果を参考に各種イベントなどの実施に努め若い世代や都会の人を対象とした国有林・営林署のPRに積極的に努めて行きたい。

表-1 森林・林業の理解度

森林に水を蓄える働きがあることを知っているか

知っている	96%	4%
-------	-----	----

知らない

森林が再生産の可能な資源であることを知っているか

知っている	92%	8%
-------	-----	----

知らない

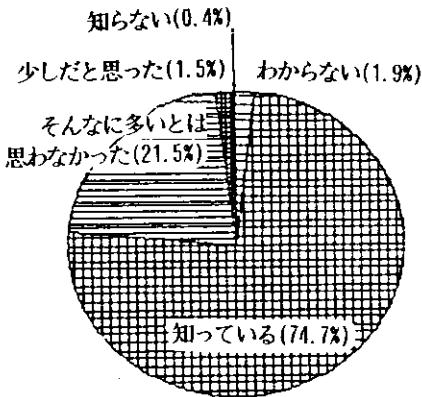


図-1 木材の輸入量

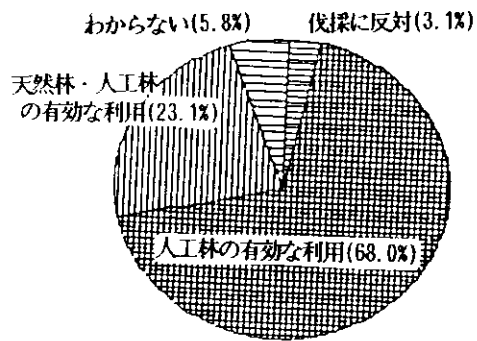


図-2 森林の伐採についてどう思うか

表-2 再生産可能な知識と森林の伐採の2元表

(単位: %)

再生産可能な知識 \ 森林の伐採	森林の伐採			
	伐採に反対	人工林なら可	有効利用を図る	わからない
知っている	1	73	25	1
知らない	27	5	5	63

かなり知っている(6.2%)

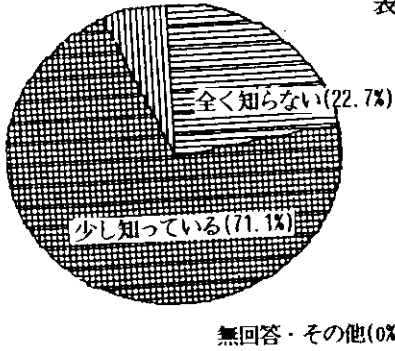


表-3 営林署の知名度(平成2年と3年の比較) %

知名度 年度	全く知らない	少し知っている	かなり知っている	無回答 その他
平2年	14	74	15	5
平3年	23	71	6	0

図-3 営林署の知名度

表-4 営林署の知名度・年代によって営林署の仕事を知っているかの2元表 %

知名度 年代	全く知らない	少し知っている	かなり知っている	無回答その他
20才代	41	13	0	0
30才代	31	8	0	0
40才代	10	29	6	0
50才代	8	34	25	0
60才代	10	16	69	0

表-5 営林署の仕事を知っているか (複数回答 単位%)

仕事 比率	財産管理	森林造成	治山	山林	道木材の生産	林野管理	その他
知っている比率	62	62	45	32	29	61	2

表-6 営林署の仕事を知っているか

年代によって営林署の仕事を知っているかの2元表(複数回答 単位%)

仕事 年代	財産管理	森林造成	治山	山林	道木材の生産	林野管理	その他
~39才	36	39	18	7	16	22	8
40才以上	56	68	78	91	85	68	0

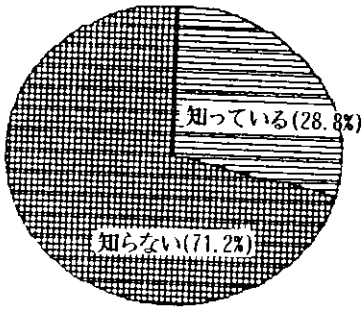


図-4 特別会計制度

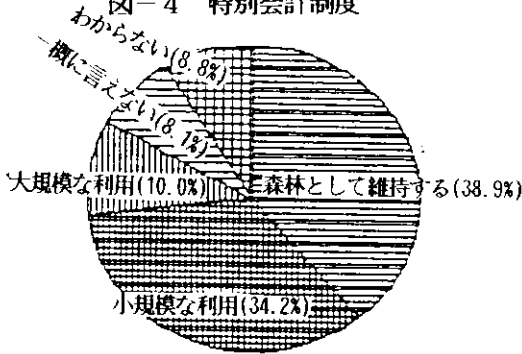


図-5 国有林の今後の取扱い

表-7 国有林の会計制度

会計制度を知っている人(年代別の)2元表(単位%)

知識 年代	会計制度を知っている人(年代別の)2元表(単位%)	
	知っている	知らない
20才代	3	25
30才代	6	16
40才代	21	24
50才代	33	25
60才代	37	10

表-8 国有林の今後の取扱い 平成2年度と3年度比較表 (単位%)

国有林の 取扱い 年度	平成2年度と3年度比較表 (単位%)				
	森林として 維持	小規模の 利用	大規模の 利用	一概に言え ない	わから ない
平成2年度	56	25	8	4	1
平成3年度	39	34	10	8	9

表-9 国有林の今後の取扱い 年代別と国有林の取扱い2元表 (単位%)

国有林の 取扱い 年代別	年代別と国有林の取扱い2元表 (単位%)				
	森林として 維持	小規模の 利用	大規模の 利用	一概に言え ない	わから ない
20才代	8	27	33	15	17
30才代	18	56	6	6	14
40才代	48	28	6	8	10
50才代	44	41	4	8	3
60才代	68	22	2	4	4